

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204763		
法人名	株式会社 ハーモニー		
事業所名	グループホーム ハーモニー広島西		
所在地 (電話番号)	広島市佐伯区八幡東4丁目26-11 (電 話) 082-926-4688		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年9月14日

【情報提供票より】H19年8月10日現在

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員	18 人
職員数	16人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15. 15

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	重鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	39,300 円
敷 金	有(150, 000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8 月10 日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 78 歳	最低 64 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広島グリーンヒル病院 山村整形外科 さくらい歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

メディカルケアほほえみグループに属するグループホームの一つである。利用者には、まず第一に心身ともに健康で、安らぎを感じてもらえるケアが目指されており、そのために利用者の「思い」を大切に、「いつもほほえみ」を忘れないケア活動が追求され、努力されている。個人記録には、利用者本人の言った言葉がそのまま記入されるなど、より精度の高い意思確認を行うことが全職員に徹底されている。近くには小学校、川沿いの遊歩道やスーパーもあり、環境には恵まれ、利用者にとって、安心と安らぎが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は①運営理念の啓発②緊急時の手当③継続的な研修④家族への情報提供⑤市町村との関わり⑥地域交流であった。改善されたのは④と⑤、改善の進捗は必ずしも順調とはいえない。今後は、運営会議を活用するなど事業所全体での積極的な改善への取り組みを期待したい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者を中心にまとめられている。今後は、全職員を巻き込み、全員で検討、問題点の掘り起しがおこなわれるよう望みたい。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) これまで5回(2ヶ月に1回)開催されているが、討議内容はホーム側からの状況説明やそれに対する質疑が中心であった。今後は、他の成功例も参考に、サービス向上に活かせる内容に変えるべく鋭意努力している。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族への情報提供は、面会時の話し合いの他、担当者による手書き便りに写真を添えて郵送するなどきめ細かく行われるようになった。また、苦情の申し越しはホーム直接の他、第三者機関を通じて可能なようになっている。苦情(殆どは要望)があった場合は全員で話し合い、すばやく対応するようにしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事に参加したり、運営推進会議を通じて地域との交流を深めるべく努力しているが、まだ充分でない。地域住民の一人として暮らすため、自治会や老人会との接点を増やし、地域活動や行事に積極的参加するなど地域交流をさらに深めるよう期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ほほえみグループの中、ホーム独自の理念、「いつもほほえみ」をつくり、その実現を目指した取り組みがなされている。利用者が心身ともに健康で、安らぎを感じてもらえるためのケアと会話が大切にされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者以下理念を共有し、実践されている。日常的には、利用者に健康で、生き生きと過ごしていただけるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に参加したり、運営推進会議を通じ地域との交流を深めるべく努力しているが、まだ充分とはいえない。	○	地域住民の一員として暮らすために、自治会や老人会との接点を増やし、地域活動や行事にも積極的に参加し、もっともっと地域との交流を深めるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性は理解され、改善のための話し合いも行われているが、全体的に前回要改善項目(6項目)の改善進捗は順調に進んでいるとはいえない。	○	要改善事項に対する全事業所を挙げた積極的な改善取り組みを期待したい。また、自己評価も全職員を巻き込んで検討した上で実施される仕組みづくりを望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、これまでに5回実施された。会議は、ホーム側からの状況説明や報告、それに対する質疑が中心であったが、今後は他の成功例などを参考にサービス向上に活かせる内容に変えるべく努力している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口担当者とは定例の会議以外でも親密な関係を維持すべく努力している。市の実施する高齢者介護に関する教室に当ホームの職員も参加するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状況については、面会時の情報提供の他、月に一度担当職員による手書きの便りに写真を添えて報告している。また、体調不良のときは、電話でも連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記されているように、苦情はホーム管理者の他、第三者ルートでも吸収できるようになっている。意見、不満、苦情が合った場合、全員で話し合い解決に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の職員は出来るだけ異動しないようにしている。異動のあった場合も、十分な情報伝達に努めることや言葉がけに注意することで、ダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成するため、可能な限りの研修機会は与えられているが、まだ体系的に進められているとは言いがたい。	○	職員の個々のレベルに応じて、必要な研修が必要なタイミングで受けれるよう「育成研修の体系的実施」を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	緊急対応に関しては、佐伯区内のグループホームの合同研修が受けれるようになっている。		現在の合同研修を軸に、同業者との交流や連携がさらに拡大することが期待される。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	雰囲気になじめるよう、ご家族とも相談しながら工夫している。何回かご家族と一緒に来てもらい、一緒にお茶を飲んだり、他の利用者と会話してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は支援する側、利用者は支援される側という意識を持たず、ともに支えあうこと、利用者の意思を否定しないこと、人生の先輩としての尊敬を忘れない中で、出来ることは一緒にやってもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まだ、充分ではないが、本人の生活歴や希望、意向は入居時、本人やご家族からの聞き取りや入居後のコミュニケーションを通じて聞き出すように努めている。本人の意向は、その人の言葉で記録し、出来るだけその意向に沿い、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良く暮らすためのケアのあり方について、利用者、ご家族、担当職員などで充分話し合い、それぞれのアイデアも加味した介護計画が策定されている。		職員の意見やアイデアを、より吸収しやすくするため定期的なミーティング開催が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに見直しされている。ただし、体調など急激な変化が生じた場合などは、ご家族と関係者で充分話し合い、現状に即した見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出の他、里帰りなどプライベートな外出、特別な受診のための送り迎えなど、可能な限り柔軟に対応し、支援している。時には、1階のデースサービスに一定時間参加することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な往診医、その他必要に応じた受診が出来るようになっている。また、異常があった場合やご家族の要望があれば、他の医院利用や往診も出来るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一家族については話し合ったことはあるが、ホームとして対応方針を決め、全体として方針を共有していると言えない。	○	関係者で充分話し合い、出来るだけ早く終末に対するホームとして対応方針を決め、全職員で方針を共有することが必要である。その上で必要なご家族と十分な事前の話し合いが行われることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いはせぬよう注意している。特に排泄その他の失敗時の言葉がけには気配りしている。また、個人情報の管理は一箇所で行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、出来るだけ本人の意向や希望に沿って過ごせるよう支援している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員が同じ食事を一緒にとり、介助の必要な人にはさりげないサポートがなされている。また、利用者の一部は準備や片付けを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人の希望に沿った時間に入浴してもらうよう支援している。嫌がる利用者にも最低週二回は入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、料理の手伝い、後片付け、洗濯物のたたみやゴミ棄て、楽しみごとでは季節ごとの行事、誕生会など、少しでも利用者それぞれ役割が持てるような場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさず、日常の散歩、買い物、ホーム行事、ファミレスやドライブなど出来るだけ戸外に出かける機会をつくるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、ユニットの出入り口には鍵がない。玄関も日中は施錠されていない。危険な時は見守りを密にし、やむを得ず施錠することもあるが、ご家族には事前に説明し了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難路確認訓練などは行われているが、災害対策としては不十分である。	○	最低年2回、全員による避難訓練実施を期待したい。また、推進会議などを通じ、災害発生時の地域支援体制、連絡網の整備など、万一の場合地域の人々の協力が得られる体制づくりも望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に栄養バランスをとることに注意が払われている。また、一人ひとりの状態に応じ摂取しやすいよう、刻み、おかゆ、お好みの飲み物を聞くなどの配慮がなされている。一日の食事、水分の摂取量は細かく把握されている。水分不足を点滴で対応したケースもあった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームにはテーブルが2つ、食事と団欒に使われている。畳のコーナーもあり、程よい広さ、程よい明るさで過ごしやすいスペースとなっている。壁には行事の写真や利用者の作品が飾られ、家庭的な調度品も置かれるなど、全体として居心地良く過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ(人によっては家具を持ち込まぬ人もいるが)、好みの飾りつけもなされており、それぞれ心地よく過ごせるスペースになっている。		

NPOインタッチサービス広島

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中でその人らしく、暮らし続けるためには、まず本人が身体的・精神的に健康で、状態が落ち着いていることが大切なので、そのための管理と会話を大切にしている	○	地域の方と関わりながらいつもみんなが笑顔で健康に生活できるようにします
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は、日々の健康管理と、入居者さんがいきいきと過ごせるように心がけている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議や月に一回の手紙を通して外出時の笑顔や施設外の人とのかかわりのときのようすを伝えている	○	地域の行事への積極的な参加に取り組んでいます
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物・散歩などの外出時や、小学生の登下校時に挨拶をするようにしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏・秋の祭りには声をかけてもらうので参加するように努めているが全員は難しい	○	地域の行事（お祭り、町内会）への積極的な参加に取り組んでいます

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホーム内での業務で精一杯なので、今後の課題としたい	○	地域の高齢者の暮らしに役立つこと以前にかかわりを持つことが必要
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	できるだけ努力しているができていないことも多い	○	職員みんなに参加してもらい、評価をまとめるようにする
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告を行い、ご家族や地域の方の意見をサービス向上に活かすよう努めている。	○	もっといろんな意見が出るようにしていきたい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	該当者がいた場合に話をすることはあるが、きちんとはできていない。	○	職員すべてが周知できるようにしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	関係資料の回覧などにより学ぶ機会を持ち、虐待のないように努めている	○	職員すべてが周知できるようにしたい
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けているが、それらを運営に十分反映できてはいない		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族等に面会時や定期的な便りで報告をしている。体調不良時の電話での報告も行う。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けているが、それらを運営に反映できるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議により、職員からの意見を報告している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じた勤務時間の変更・残業・勤務交代により調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとに配置した職員はできるだけ異動しないようにしており、代わる場合は利用者へのダメージを防ぐように言葉かけに配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画的には難しいが、法人外の研修には勤務日程を合わせるなどして順番に受けてもらうようにしている。	○	計画的に体系的に取り組んでいきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	時間的に、勤務時間外になると難しく、勤務時間内では余裕がないため、できていない。 救急対応に関する研修は佐伯区内のGHが合同で受けるようにしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状況に差が出ないようにする。研修を受けるなど	○	個別の面接により話をする機会を持つ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談から利用に至るまでに本人に会う機会は少なくとも十分にできていない。	○	入居までに時間のないことも多く何回も会うというのは難しいが、できるだけおこないたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、医療・在宅を含めや他のサービス利用も検討できるよう提案はしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何回か家族と一緒に来てもらってお茶を飲んだり他の入居者と会話してもらうこともある。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけそうなれるように努めている。		
----	---	---------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	できるだけ一緒にかかわってもらえるような努力はしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	できるだけ努めている。		手紙での近況の報告によりできるだけ会いに来てもらえたらと思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に訪ねてきてもらえるように声をかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	会話・配膳・掃除・洗濯たたみ・散歩・買い物などを通して利用者同士が関りあえるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要な場合にはできるようにしていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	できるだけ努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	年齢・体力・持病を含め、一人ひとりの過ごし方、役割を尊重するよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	できるだけ話し合い、作成している。	○	情報の共有化のため1ヶ月に1回のミーティングを行うようにしていきます。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	できるだけ話し合い、作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かせるように個別記録を記入している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できるだけ対応できるようにしている 併設のデイサービスに立ち寄ったり、症状に応じて近医への通院を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	徘徊ある方などの協力をお願いすることはあっても具体的に十分にはできていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて相談することはあるが、具体的な支援に結びついてはいない。対象者がいない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談することはあるが、具体的な支援に結びついてはいない。	○	成年後見などについてもっと教えてもらう機会をもちたい、
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	24時間対応可能な往診医、必要に応じた科の受診を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当の精神科医に相談助言を得ている。 必要であれば、医療相談室へ相談し新規に受診をすすめることもある		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診時の看護師・併設のデイサービスの看護職員に相談することもある		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療相談室のある病院に関しては、連携を取れるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	十分にはできていない。 一家族のみ話し合いをもったことがある。	○	ご家族の要望と利用者のレベルに応じてホームの方針を決定します
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	症状的にどういう状態になったらどうするという具体的な話はできていない	○	それぞれの入居者に対しての具体的な支援方法を検討していく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	できるだけ努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	トイレの失敗や他の失敗について他の入居者の前で言わない。 記録は一箇所に置いている		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言葉かけ・選択肢により自分の意思で決定できるように、そう思えるように支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日をどのように過ごしたいか、希望にそえることと添えないことがあり、難しい		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節の違うものを着たり、何枚も重ねて着ないよう声をかける。		本人の行きたい店に行くことが望ましいが、身体的に難しい場合もある。
----	--	-------------------------------	--	-----------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	同じ食事を一緒に会話しながら食べる 入居者同士の相性、身体状況に合わせて座る位置を決めている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・タバコに関しては、嗜好される方がいない 飲み物・おやつに関しては好みを聞くようにしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排泄パターンに沿った時間的な声かけ・誘導・下着・リハパン・パッドを昼夜・体調に合わせて使い分けしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	できるだけ本人の希望に沿うようにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個別に休む場合には、居室・畳などで横になったり、思い思いに過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合わせた役割や場面づくりをおこなっている。	○	利用者に企画してもらうなど、自主的な参加ができるようにしていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望、力量、ご家族の希望に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物などに出るようにしているが、すべての人にといいわけではない	○	個別での外出を、できるときにできるだけ多く行えるようにしていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ご家族への相談・協力により、できることもある。車でのドライブをすることもある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の状態・家族の要望に合わせて、行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来ていただき、それぞれのお部屋や居間で過ごされている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	正しく理解できているかは不明 身体拘束をしないケアに努めている。	○	職員全体が周知できるようにしたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・ユニットで入り口に鍵はない。 玄関も日中は鍵をかけないが外出傾向のある場合は制限することもある。家族に説明している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間は、定期的に所在を確認、夜間は2時間おきの巡室により安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	見守り・声かけにより職員が目を離さないように注意している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	できるだけ取り組んでいる		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的には行えていない	○	定期的に行えるようにしていきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な防災訓練を行い、運営推進会議により地域の人々の協力をお願いする。	○	定期的な防災訓練を行います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒・持病の悪化などについてはなし、家具の配置の変更、医師の変更に協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック・食事量・顔色・言動に異変がある場合は気づいた時点で管理者に報告し、必要があれば往診医の往診症状にあわせた病院への受診を行う。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効用についての用紙を各自の薬箱に入れて確認できるようにしている。 症状の変化の有無を医師に報告している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給と適度な運動、食物繊維の多い食べ物を選ぶ トイレの声かけに気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	できるだけ毎食後に声かけ・誘導・介助により口腔ケアを行う		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	おかゆ、きざみにする。とろみをつける。 好みの飲み物を聞く。飲み物の種類をいろいろ増やす		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	インフルエンザの予防接種(入居者・職員) 疥癬は皮膚の観察 他感染症は既往の確認、食器を分ける衣類の洗濯時に気をつけつる。入浴を最後にするなど ノロウィルスは食品の扱いに注意する		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の包丁まな板の漂白、除菌をおこなっている。 毎日の買い物により新鮮な食材の確保し、腐らせるものがないように気をつけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周り、玄関に植物を置いたり家庭的な飾りを行っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や飾り、外出時の写真により、季節感を感じてもらえるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際のソファで過ごしたり畳で寝ころんだりしている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	人によっては、使い慣れたものを持ってこられている。本人の好みや身体状況に合わせた配置をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除、天気の良い日は、窓を開けて換気をしている。昼夜の部屋の温度調節に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差のないように、邪魔になる家具などないようにしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	部屋、トイレの識別、できることへの声かけに気をつけている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外周リを散歩したり、敷地内では畑の作物を見たり、収穫したり洗濯ものを干したりしている ベランダには、布団を干しに出ることもある。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの○ ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある○ ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが○ ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと・・・・・・○ ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに・・・・・・・・・○ ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている・・・・・・○ ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが・・・・・・○ ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが・・・・○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの・・・・・・○ ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中でその人らしく、暮らし続けるためには、まず本人が身体的・精神的に健康で、状態が落ち着いていることが大切なので、そのための管理と会話を大切にしている	○	地域の方と関わりながらいつもみんなが笑顔で健康に生活できるようにします
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は、日々の健康管理と、入居さんがいききと過ごせるように心がけている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や月に一回の手紙を通して外出時の笑顔や施設外の人とのかかわりのときのようすを伝えている	○	地域の行事への積極的な参加に取り組んでいます
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物・散歩などの外出時や、小学生の登下校時に挨拶をするようにしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏・秋の祭りには声をかけてもらうので参加するように努めているが全員は難しい	○	地域の行事（お祭り、町内会）への積極的な参加に取り組んでいます

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホーム内での業務で精一杯なので、今後の課題としたい	○	地域の高齢者の暮らしに役立つこと以前にかかわりを持つことが必要
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	できるだけ努力しているができていないことも多い	○	職員みんなに参加してもらい、評価をまとめるようにする
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告を行い、ご家族や地域の方の意見をサービス向上に活かすよう努めている。	○	もっといろんな意見が出るようにしていきたい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	該当者がいた場合に話をすることはあるが、きちんとはできていない。	○	職員すべてが周知できるようにしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	関係資料の回覧などにより学ぶ機会を持ち、虐待のないように努めている	○	職員すべてが周知できるようにしたい
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けているが、それらを運営に十分反映できてはいない		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族等に面会時や定期的な便りで報告をしている。体調不良時の電話での報告も行う。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けているが、それらを運営に反映できるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議により、職員からの意見を報告している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じた勤務時間の変更・残業・勤務交代により調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとに配置した職員はできるだけ異動しないようにしており、代わる場合は利用者へのダメージを防ぐように言葉かけに配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画的には難しいが、法人外の研修には勤務日程を合わせるなどして順番に受けてもらうようにしている。	○	計画的に体系的に取り組んでいきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	時間的に、勤務時間外になると難しく、勤務時間内では余裕がないため、できていない。 救急対応に関する研修は佐伯区内のGHが合同で受けるようにしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状況に差が出ないようにする。研修を受けるなど	○	個別の面接により話をする機会を持つ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談から利用に至るまでに本人に会う機会は少なくとも十分にできていない。	○	入居までに時間のないことも多く何回も会うというのは難しいが、できるだけおこないたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、医療・在宅を含めや他のサービス利用も検討できるよう提案はしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何回か家族と一緒に来てもらってお茶を飲んだり他の入居者と会話してもらうこともある。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけそうなれるように努めている。		
----	---	---------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	できるだけ一緒にかかわってもらえるような努力はしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	できるだけ努めている。		手紙での近況の報告によりできるだけ会いに来てもらえたらと思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に訪ねてきてもらえるように声をかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	会話・配膳・掃除・洗濯たたみ・散歩・買い物などを通して利用者同士が関りあえるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要な場合にはできるようにしていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	できるだけ努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	年齢・体力・持病を含め、一人ひとりの過ごし方、役割を尊重するよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	できるだけ話し合い、作成している。	○	情報の共有化のため1ヶ月に1回のミーティングを行うようにしていきます。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	できるだけ話し合い、作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かせるように個別記録を記入している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できるだけ対応できるようにしている 併設のデイサービスに立ち寄ったり、症状に応じて近医への通院を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	徘徊ある方などの協力をお願いすることはあっても具体的に十分にはできていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて相談することはあるが、具体的な支援に結びついてはいない。対象者がいない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談することはあるが、具体的な支援に結びついてはいない。	○	成年後見などについてもっと教えてもらう機会をもちたい、
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	24時間対応可能な往診医、必要に応じた科の受診を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当の精神科医に相談助言を得ている。 必要であれば、医療相談室へ相談し新規に受診をすすめることもある		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診時の看護師・併設のデイサービスの看護職員に相談することもある		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療相談室のある病院に関しては、連携を取れるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	十分にはできていない。 一家族のみ話し合いをもったことがある。	○	ご家族の要望と利用者のレベルに応じてホームの方針を決定します。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	症状的にどういう状態になったらどうするという具体的な話はできていない	○	それぞれの入居者に対しての具体的な支援方法を検討していく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	できるだけ努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	トイレの失敗や他の失敗について他の入居者の前で言わない。 記録は一箇所に置いている		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言葉かけ・選択肢により自分の意思で決定できるように、そう思えるように支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日をどのように過ごしたいか、希望にそえることと添えないことがあり、難しい		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節の違うものを着たり、何枚も重ねて着ないよう声をかける。		本人の行きたい店に行くことが望ましいが、身体的に難しい場合もある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	同じ食事を一緒に会話しながら食べる 入居者同士の相性、身体状況に合わせて座る位置を決めている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・タバコに関しては、嗜好される方がいない 飲み物・おやつに関しては好みを聞くようにしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排泄パターンに沿った時間的な声かけ・誘導・下着・リハパン・パッドを昼夜・体調に合わせて使い分けしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	できるだけ本人の希望に沿うようにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個別に休む場合には、居室・畳などで横になったり、思い思いに過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合わせた役割や場面づくりをおこなっている。	○	利用者に企画してもらうなど、自主的な参加ができるようにしていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望、力量、ご家族の希望に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物などに出るようにしているが、すべての人にといいわけではない	○	個別での外出を、できるときにできるだけ多く行えるようにしていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ご家族への相談・協力により、できることもある。車でのドライブをすることもある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の状態・家族の要望に合わせて、行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来ていただき、それぞれのお部屋や居間で過ごされている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	正しく理解できているかは不明 身体拘束をしないケアに努めている。	○	職員全体が周知できるようにしたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・ユニットで入り口に鍵はない。 玄関も日中は鍵をかけないが外出傾向のある場合は制限することもある。家族に説明している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間は、定期的に所在を確認、夜間は2時間おきの巡室により安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	見守り・声かけにより職員が目を離さないように注意している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	できるだけ取り組んでいる		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的には行えていない	○	定期的に行えるようにしていきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な防災訓練を行い、運営推進会議により地域の人々の協力をお願いする。	○	定期的な防災訓練を行います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒・持病の悪化などについてはなし、家具の配置の変更、医師の変更に協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック・食事量・顔色・言動に異変がある場合は気づいた時点で管理者に報告し、必要があれば往診医の往診症状にあわせた病院への受診を行う。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効用についての用紙を各自の薬箱に入れて確認できるようにしている。 症状の変化の有無を医師に報告している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給と適度な運動、食物繊維の多い食べ物を選ぶ トイレの声かけに気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	できるだけ毎食後に声かけ・誘導・介助により口腔ケアを行う		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	おかゆ、きざみにする。とろみをつける。 好みの飲み物を聞く。飲み物の種類をいろいろ増やす		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	インフルエンザの予防接種(入居者・職員) 疥癬は皮膚の観察 他感染症は既往の確認、食器を分ける衣類の洗濯時に気をつけつる。入浴を最後にするなど ノロウィルスは食品の扱いに注意する		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の包丁まな板の漂白、除菌をおこなっている。 毎日の買い物により新鮮な食材の確保し、腐らせるものがないように気をつけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周り、玄関に植物を置いたり家庭的な飾りを行っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や飾り、外出時の写真により、季節感を感じてもらえるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際のソファで過ごしたり畳で寝ころんだりしている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	人によっては、使い慣れたものを持ってこられている。本人の好みや身体状況に合わせた配置をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除、天気の良い日は、窓を開けて換気をしている。昼夜の部屋の温度調節に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差のないように、邪魔になる家具などないようにしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	部屋、トイレの識別、できることへの声かけに気をつけている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外周りを散歩したり、敷地内では畑の作物を見たり、収穫したり洗濯ものを干したりしている ベランダには、布団を干しに出ることもある。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの○ ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある○ ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが○ ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと・・・・・・○ ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに・・・・・・・・・○ ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている・・・・・・○ ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが・・・・・・○ ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが・・・・○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの・・・・・・○ ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目